



社報  
あそみや

平成 5 年 1 月 1 日  
第 8 号  
発行所  
阿蘇神社社務所  
多良見町化屋名 862  
TEL 0957-43-5235

# 賀 春

阿蘇神社

宮司 大島 大明

輝かしく平成五年の新春を迎え、まず阿蘇神社の御神前に、皇室の弥栄と氏子崇敬者各位の御健康をお祈り申し上げます。

昭和六十三年九月一日付で当社に着任致しましてより、早いもので五度目の正月を迎えることとなりました。

昨年は氏子崇敬者各位より多くの浄財を賜り、立派な社務所を改築することが出来ました。是れも偏に御神慮の賜物と募金活動ご尽

力をお願いした関係各位の御高配によるものであり、衷心より深く感謝申し上げます。  
今後は新しい社務所を中心として、より活発な神社活動を展開し、微力ではございますが、地域社会のお役に立ちたいと念願いたしております。

本年も阿蘇神社に倍旧の御支援御高配を賜りますようお願い申し上げます。

## 敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であって、崇高なる精神を培い、大平を開くの基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を発揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかかげて、向かふところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、

明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、

神のみこともちとして世をつくり固め成すこと

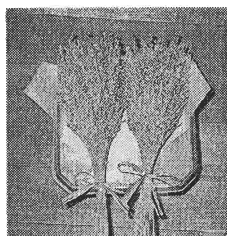
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、

国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

新嘗祭齋行

秋晴れの十一月二十三日、午前十一時より新嘗祭が多数の参列のもと、厳肅に斎行された。

神前には山口充喜氏(中里名)より献納された初穂、また神社庁西彼支部献穀田で実った新米等が供えられ、五穀豊饒の感謝と諸産業の発展を祈念する祝詞が奏上された。



山口充喜氏より奉納された初穂

シーサイド2区より奉納の鈴の緒



また、当日の祭典にはシーサイド二区より奉納された拝殿の鈴の緒と、新しく張替えられた太鼓が神前に奉納披露された。

祭典終了後、社務所で直会及び評議員会を開催した。

節分豆撒き奉仕者募集

阿蘇神社恒例の節分豆撒き行事の奉仕者を左記の通り募集します。十二年に一度のチャンスです。西(とり)年生まれの方ならどなたでも参加できます。希望者は神社まで申込下さい。

記

一、日時 二月三日 節分の夜

一回目 午後六時四十分

二回目 七時三十分

三回目 八時二十分

一、募集定員 一回六名

計 十八名

一、資格 西(とり)年生まれの方に限る。男女不問

一、参加初穂料

大人 八、〇〇〇円

子供 五、〇〇〇円

(写真他記念品を贈呈します。)

一、申込方法

◎参加料を添えて、住所・氏名・生年月日・電話番号と希望の

時間を神社までお知らせ下さい。(詳細は本人へ直接連絡致)

◎祥の数の関係で、一回六名です。家族または友達と一緒に組を希望される方は、併せて

申込下さい。

参考 西歳生

昭和五十六年・昭和四十四年  
昭和三十二年・昭和二十年  
昭和八年・大正十年  
明治四十二年



節分祭

節分とは、本来春夏秋冬の季節の分かれを云います。しかし現在では、冬から春に移る立春の前日を節分と云うようになりました。

災いをもたらす鬼(悪霊)を年男が穀霊の宿った豆を撒いて追い払い清々しい気持で春を迎えようとするのが現在のお祭です。

謹賀新年



宮司	大島 大明
総代会長	北島 勇夫
副会長	本嶋 吉松
総代	森 肇
全	大庭 英雄
全	峰 公治
全	上原 国雄
全	相良 作實
全	笹田 末吉
全	坂田 栄治
全	本多 實美
全	濱本 龍助
監事	

阿蘇神社年末年始行事

十二月三十一日

午後 四時 大祓式

午後十一時 除夜祭

一月一日 午前一時 歳旦祭

午前零時より新年祈願を  
随時受付いたします。

三日 午前九時 元始祭

三日 午後五時 節分祭

二月三日 午後五時 節分祭

引続き 火焼神事

引続き 豆撒き行事

十一日午前十一時 紀元祭

◎どなたでも参列出来ます。ご家族ご近所お揃いでご参列下さい。

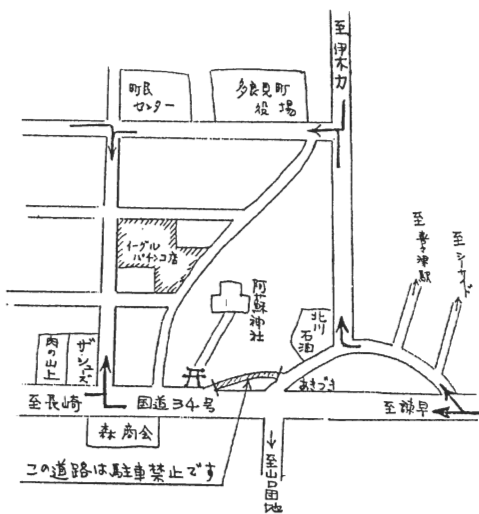
# 初詣は氏神様へ

## 一年の計は元旦にあり

恙なく新年を迎えたことを感謝し、一年間の目標を氏神様にお願いいたしましょう。

初詣は慌ただしかった年末と違い、身も心も清々しくなります。

家族揃って氏神様にお参りいたしましょう。



平成五年算賀	厄入り	厄払い	その他	還暦	古稀	喜寿	傘寿	米寿	十三参り
男	女	男	女	男	女	男	男	男	
昭和二十八年生	昭和二十七年生	昭和二十五年生	昭和四十四年生	昭和五十年生	大正十三年生	大正三年生	大正三年生	明治三十九年生	昭和五十六年生

◎初詣・節分祭など神社への参拝にはイググルパチンコ店の駐車場を借用いたしております。  
◎自動車は路上駐車をせず駐車場へお入れ下さい。

## 神社 Q & A

### 神社と鈴

神社に詣でると、拝殿前には必ずと云って良いほど賽銭箱と鈴があります。参拝祈願すると、神楽舞で鈴を振ったり、祈願者の頭に鈴を鳴らしたりいたします。鈴は神社で大切な役割をしています。

現在の巫女と違い、もともとの巫女は神事の時神懸りし、神と一体化して神の声を伝えていました。この時巫女が振る神楽鈴は神霊を招くに欠くことの出来ない物でありました。

神社の拝殿前にある鈴も、神楽鈴に由来するものと思われまます。神様に拝礼をするに当り、鈴の緒を振り鈴を鳴らす事は、神様の尊い御神恩を受けらることにつながります。

神社仏閣に詣でたときは、氣持を鎮め清らかな心で鈴を大きく鳴らして下さい。

### お神札とお守り

一口で云うと、お神札は神棚



に祀り、お守りは身に付けたり車等に付けて持ち回るものと云えます。お神札もお守りも神様の尊い御霊(みたま)の分かれます。神棚のお神札に手を合わせ、お守りを大切に扱うことは、神社に詣でて手を合わせるのと変わり有りませぬ。新年には全てのものが生命を新たにします。そして神々の霊威もまた新たなになります。新しい年に新しいお神札お守りを受け、ことに、より高い御加護と御神徳をいただくこと

になります。身につけるお守りのほか、車に付けるお守り、船に付けるお守り、他、破魔矢・熊手等も新しく受け、神様の御霊をいただきます。

なお、旧年中のお神札お守りは二月三日の節分までに神社にお納め下さい。節分の夜火焼(ほやき) 神事をい焼き納めます。

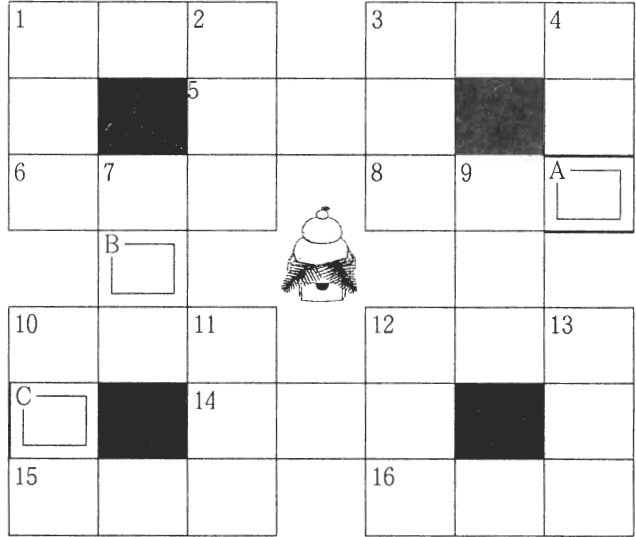
新年の運だめし Cross Word Puzzle

今年の運だめしです。ハガキに①答え、②住所、③氏名、④電話番号を書いてお送りください。正解者に阿蘇神社オリジナルテレホンカードを20名様（正解者多数の場合は抽選）にお送りします。締め切りは 2月3日必着。

送り先 〒859-04 西彼杵郡多良見町化屋名862 阿蘇神社パズル 係  
（正解者多数の場合、抽選は2月3日節分の第一回豆撒き終了後行います。）

《タテのかぎ》

- 1.貨幣の一種
- 2.木片を重ねて遊ぶ玩具
- 3.鉛とすずの合金
- 4.難問に答える
- 7.洋画（映画）には必要？
- 9.神主の笏（しゃく）はこの木でつくります。
- 10.経験不足
- 11.昔のかぶりもの
- 12.あまい味
- 13.多良見町特産 アムール



《ヨコのかぎ》

- 1.多良見町は3村合併、大草、伊木力そして
- 3.5, 7, 5 足すと17
- 5.調味用のお酒
- 6.まぐろの一種
- 8.豆腐、みそ、醤油の原料
- 10.県内の市の名前
- 12.向いあって談話する
- 14.洋服にはつきものです。
- 15.うるわしい姿
- 16.伊木力と言えば...

◎ABCの文字を並べかえると判ります。  
（出題 宮司）ヒント 喜々津の人は食べません。

社務所改築工事寄付者  
芳名簿の訂正とお詫び

先にお届けした名簿に以下の通り誤字及び掲載漏れが有りましたので訂正並びに追加をして、お詫び申し上げます。▲敬称略▼

【訂正】

- 6頁 山口 清→山田 清
  - 7頁 鍛塚 章→飯塚 章
  - 8頁 石田 嗣→石田 善嗣
  - 9頁 山田 則子→山口 則子
  - 11頁 松田松之助→舛田松之助
  - 31頁 永岡 正史→永岡 正夫
  - 32頁 松山 正義→松山 政勝
- （松山正義氏を重複して掲載）

【記載漏れ】

中里区 一万円 南 英徳 殿

◇以上十二月十日までに神社へ連絡をいただいた方（以降のお申し出については、次号で訂正致しますので、ご了承下さい。）

【追加寄付】

シーサイド二区 前田楨一 殿  
ご篤志に感謝申し上げます。

◎奉納御礼◎

昨年十月以降、以下の通り奉納賜りました。御厚志を感謝し心よ

り御礼申し上げます。  
◎木造りけんがい  
長与町在住 坂口勝義 殿



◎拝殿用鈴の緒 一本  
シーサイド二区

（代表 濱本龍助氏） 殿

編集後記

社報あそみや第八号をお届けします。◇テレホンカードを作成しました。希望者はクイズにご応募して下さい。◇寒さ厳しき折柄 御自愛專一にお過し下さい。

◎大駐車場完備（阿蘇神社裏）  
イーグルパチンコ  
神社参拝の駐車場としてもご利用下さい